

来年、受験生になるほくに、母が、  
 「今の雄翔に、きっと心郷に響くと思うよ。」  
 と、渡されたのか「受験のシンデレラ」とい  
 う本だった。初めこの本の題名を見た時、  
 シンデレラと書いていたので、きつと女の子  
 向けで、内容も明るいいものだと思いました。  
 しかし、読んでみると、余命宣告されたカ  
 リスマ塾講師が、人生最後の仕事として、劣  
 悪な環境に身を置く高校生の少女を、東大合  
 格へ導くといつた予想外な話でした。

主人公の真紀は、童話「シンデレラ」のよ  
 うに、料理や家事を一切しないで働かず、勉  
 強にも無関心な母親に苦勞していましたが、  
 ぼくの環境とは、全く真逆な家庭環境で驚き  
 ました。  
 正直、真紀の家に生まれなくて良かったと  
 思いました。なぜなら、真紀のように、けな  
 げに頑張り続ける自信なんて、苦勞知らずの  
 ぼくにはなかったからです。  
 この本を読んでいくと、真紀と自分か  
 似て

いることにふと気づきました。実力テスト  
 の成績が伸びないのに、毎日勉強を続けて  
 いる自分と、猛勉強をしても高校生のレベル  
 にもいかなない東大受験生の真紀の姿が、努力  
 しても報われない自分と何度も重なりました。  
 また、受験の力リスマと呼ばれた五十嵐先  
 生の姿は、ほくにたくさんの感動を与えてく  
 れました。

余命一年半の現実にも関わらず、他人であ  
 る真紀の為に、最後の人生を捧げていたから  
 です。ほくが同じ立場だったら、同じことが  
 できたのだろうか？きこできないだろう。

実は、ほくは、小学5年生の時に、交通事  
 故にあつたことがありました。車に轢かれた  
 後、足には創外固定装置加つけられ、2カ月  
 間、寝たきりの入院生活を送りました。その  
 頃の自分は、自分のことと、とにかく精一杯  
 で、人のことなど考えられませんでした。  
 母は、不本当に優しい人は自分が大変な  
 時に助けにくれる人だ。と言った。

まさに、五十嵐先生のことだと感じました。  
 しかし、先生は初めから素晴らしい人だっ  
 たわけではなく、その逆でした。東大受験を  
 お金の道具にするような欲にまみれた人でし  
 た。病気になる。真紀との出会いのおかげで  
 本来目指していた志しを取り戻すことができ  
 たのです。改めて、人との出会いが人生を変  
 えると思いました。

ぼくの人生を変えたのは、両親や先生方と  
 の出会いだと思っ  
 ています。

交通事故の時に、現場に駆けつけ、必死に  
 心臓マッサージをしてくれた母。いつも勉強  
 をサボートしてくれる両親に感謝しています。  
 学校生活では、悩みがあると先生が真剣に  
 思いを聞いてくれ、解決してくるので、安  
 心して過ごせます。  
 ぼくもそんな生徒に、寄り添える先生になり  
 たいです。

ぼくは、この本を読んでいた時、何度も自  
 然と涙が出ました。それは、五十嵐先生の真

紀への思いやりが、とても深かったからで  
 す。亡くなる直前まで、病気を隠し、真紀に  
 試験前日、電話をかけ、「ありがとう」と言  
 った一言は、自分らしく人生を生きることか  
 できたのは、真紀加いってくれたからだと、心  
 から感謝した真実の言葉だったにちかない  
 と思います。

真紀の合格を最後まで信じ、真の赤いバラ  
 を壁に貼り付け、ハ文科Ⅱ類遠藤真紀✓と貼  
 り付けておいてくれた場面では、先生と生徒  
 の信頼の絆を感じ、深く感動しました。

ぼくは、この本に出会えて本当に良かった  
 と思います。諦めおに、努力することは、  
 いつか自分の人生を変えることになると思  
 うし、人の為に尽くすことは、自分の人生を  
 変えると思います。真紀が、先生に救われ、人  
 生を変えたように、先生もまた、真紀のおか  
 げで人生を変えることができただけです。

五十嵐先生はせくなる前、真紀に向けて、  
 最後のメッセージを残していました。それは、

「受験の要領ファイル」と書いた一枚の紙。ファイルは、次のスタート！合格はゴールではなく、次のスタートで、受験でつけた力をいれたい次に生かすことか、どのようにな形で発揮できるか、自分の花を咲かせ続けられるかか決まると、最後の力を振り絞って書かれていました。

ほくも、受験をゴールにせし、五十嵐先生のように、どんな環境の人でも教育を受けられることか、できるよう、教育の社会格差をなくすること、に貢献できる教師になりたいです。

最後に、なぜ、この本を母がほくに薦めてくれたのか、今ならよくわかります。

なぜなら、こんな自分でも頑張れば、まだ希望があるのだと勇気を与えてくれる本だったからです。まさに希望をくれた一冊の本。

是非、この本をたくさんの人に読んでもらいたいのです。そして、これからの未来の為に一緒に努力していきける大人になっ、ていきたいと思ひます。